HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Characteristics and clinical relevance of late gadolinium enhancement in cardiac magnetic resonance in patients with systemic sclerosis

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 誠 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003395

論文審査の結果の要旨

強皮症の心病変は、臨床的には低頻度であるが予後不良因子であり、剖検例においては心筋線維化が 50 – 80%に認められる。心臓 MRI によるガドリニウム遅延造影像（Late Gadolinium Enhancement; LGE）は心筋線維化を評価でき、心筋症の診断に広く用いられているが、強皮症についての検討は少ない。申請者は、強皮症患者における心臓 MRI の LGE の役割を、心病変検出に有用と報告されている血清ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（NT-proBNP）値や、他の臨床的特徴、画像・血液検査結果との関連から評価した。

浜松医科大学医学部附属病院に通院する強皮症患者 47 名（17 – 77 歳）中、冠動脈疾患、重症弁膜症、他の心筋症、腎機能障害やデバイス留置後の患者を除く 40 名を対象とした。LGE の評価には 17 分画モデルを用い、分布、分画ごとの深達度と心筋全体に対する比率を解析した。LGE は対象 40 名中 7 名（17.5%）に認め、心室中隔の心筋中層に多く、無症候性患者にも認めた。また肺高血圧合併例では特徴的な右室接合部への分布を示し、右室駆出率低下を伴っていた。心筋全体に対する平均分布比率は 2.7%と低値であったが、7 名中 5 名で左室駆出率低下（< 50%）を伴い、3 名では LGE 部位に一致した壁運動低下を認めた。一方 LGE を認めなかった 33 名中左室駆出率低下を認めたのは 2 名であった。LGE を認めた群では NYHA2 度以上（71% vs 27%, $p < 0.05$）と脚ブロック合併（57% vs 9%, $p < 0.05$）が多かったが、NT-proBNP が高値（> 125 pg/ml）をとった患者の割合には有意差を認めなかった（57% vs 21%, $p = 0.053$）。以上から申請者は、LGE は症状や伝導障害、心室の収縮機能低下と関連があると結論した。

審査委員会では、本研究が強皮症の心病変の病態解明、ならびに病態別の早期介入による予後改善に資するものであることを高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　椎谷 紀彦
　　副査　須田 隆文　　副査　難波 宏樹